

仕事も家庭も趣味も。実り多き暮らしを求めて 20～30代 働く女性のおもいと実態

生活者研究センター
JJP (ジョシジョブプロジェクト)

現在、日本では少子高齢化による労働人口のさらなる減少が予想され、女性の「働く力」に大きな期待が集まっています。「女性が活躍する社会」の実現が望まれる一方で、結婚・出産などのライフステージによる影響を受けやすい女性たちの多くは、働き方の選択を迫られるのが現状です。20～30代の働く女性たちのリアルな声を聞き、彼女たちの今を報告します。

- いまだ出産退職が多い若年女性たちの現状
- 多方面で実りあるくらしを描く、働く女性たちのおもい
- 責任感や気遣いから、自分の気持ちに折り合いをつける女性たち
- ちょっとしたきっかけから、一歩踏み出した女性たち
- 一歩踏み出すためにも、「やってみたい」気持ちを大切に

【調査概要】

「働く女性のおもいとくらし」

調査期間：2015年4～9月
調査方法：家庭訪問インタビュー
調査対象：首都圏在住 20～30代有職女性
対象者数：11人

「仕事についての意識」

調査期間：2015年8月
調査方法：インターネット調査
調査対象：20～30代有職女性
回答者数：350人

いまだ出産退職が多い若年女性たちの現状

1986年の男女雇用機会均等法の施行以降、育児休業法をはじめとして女性の社会進出を支援する法的整備が進んだことで、25～44歳の女性の就業率は上昇しました(表1)。現在では短時間勤務やテレワークなど、働き方も柔軟になってきており、今後ますます多様化していくことが予想されます。

第1子出産前後における就業継続率も上がってきてはいますが、依然出産のタイミングでの退職者が多いというのが現状です(図1)。

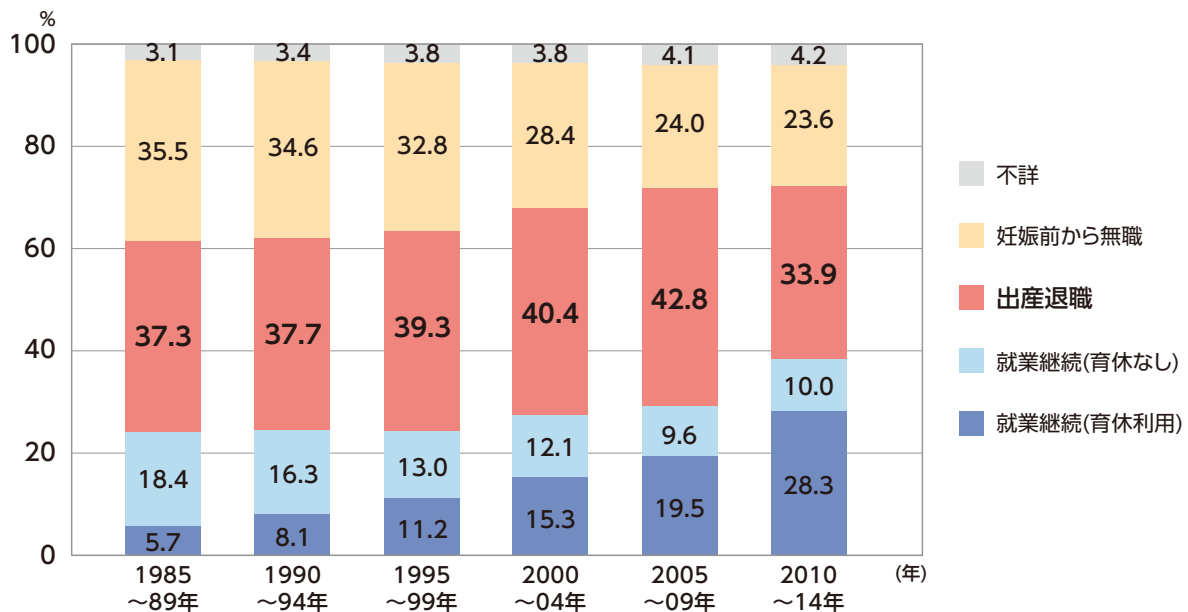
(表1)女性を取り巻く状況

| 年 | 法律等 | 女性 就業率(%) <25-44歳> | 共働き 世帯数(万人) | 非正規 雇用率(%) <25-44歳> | 管理職 比率*(%) |
|--------------|--|--------------------------|----------------|---------------------------|---------------------|
| 1985 | 男女雇用機会均等法施行(1986年) | 56.5 | 722 | 37.3 (1988年) | — |
| 1990 | 育児休業法制定(1991年) 男女共同参画社会基本法制定(1999年) | 60.5 | 823 | 39.2 | — |
| 2005 | 次世代育成支援対策推進法制定(2003年) | 64.0 | 961 | 46.1 | 10.1 |
| 2010 | 育児介護休業法改正(2009年) | 66.5 | 1012 | 47.1 | 10.6 |
| 2015 | 女性活躍推進法制定(2015年) | 71.6 | 1114 | 47.8 | 12.5 |
| 2020 (目標) | | 73*2 | — | — | 30(2025年) →15に修正 |

出典)総務省「労働力調査」

*1 管理的職業従事者に占める女性の割合

*2 内閣府ホームページより



出典)国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」

(図1)第1子出産前後の就業変化

多方面で実りあるくらしを描く、働く女性たちのおもい

20～30代の働く女性たちのインタビュー調査から、仕事や家庭、将来へのおもいを通じて、彼女たちが思い描く暮らしが見えてきました。

おもい 1

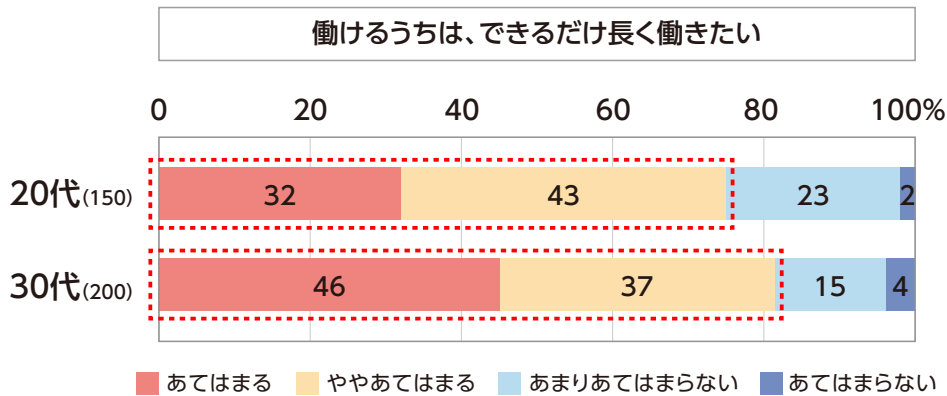
働きたい

高校のときから一生働けるようにと思い、資格を取って看護師になった。
(26歳・未婚・フルタイム)

夫の収入や将来のことを考えると、専業主婦では不安。夫も、私に働き続けて欲しいと思っているみたい。
(35歳・既婚・フルタイム)

これから子供の教育にもっとお金がかかるので、ずっと働き続けていきたい!
(37歳・既婚・フルタイム・子供3歳)

女性も今や働くことを当たり前と考えています。働けるうちは、できるだけ長く働きたいと希望し(図2)、収入を得ることでリスクを回避し、「安心感」を維持したいと考えているようです。



20～30代有職女性 350人(花王生活者研究センター調べ)

(図2) 仕事に対する意識

おもい 2

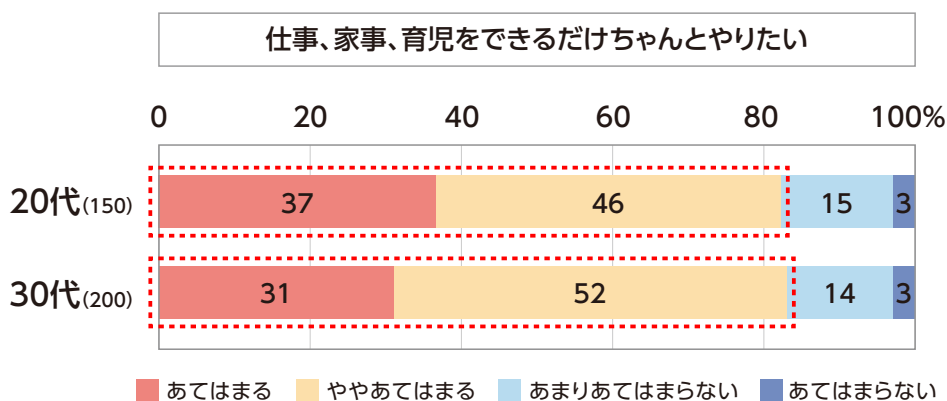
責任を果たして認められたい

任されたプロジェクトをきちんとやりたい。職場の人に迷惑をかけたくないから、帰宅してからも毎日勉強している。
(25歳・未婚・フルタイム)

来年結婚が決まっている。仕事を続けながら、家事もしっかりやって、将来、夫や子供に安心して暮らしてもらいたい。
(28歳・未婚・フルタイム)

どんなに忙しくても、「仕事と子育ての両立は大変」と思われぬように、いつもキレイなママでいるよう努力している。これから出産や育児をする職場の後輩たちのお手本になりたい。
(33歳・既婚・時短勤務・子供2歳)

仕事だけでなく、家庭でもしっかり責任を果たしたいというおもいが強く(図3)、その結果として、周囲の人や家族から認められ、「自信」を得たいという様子がうかがえました。



20~30代有職女性 350人(花王生活者研究センター調べ)

(図3)仕事と暮らしへのおもい

おもしろ

チャレンジして、世界を広げたい

自分の得意な分野で、いつか起業して、みんなを笑顔にするのが夢!

(27歳・既婚・フルタイム)

趣味の中国語を活かして、日本と中国の交流に貢献したい。

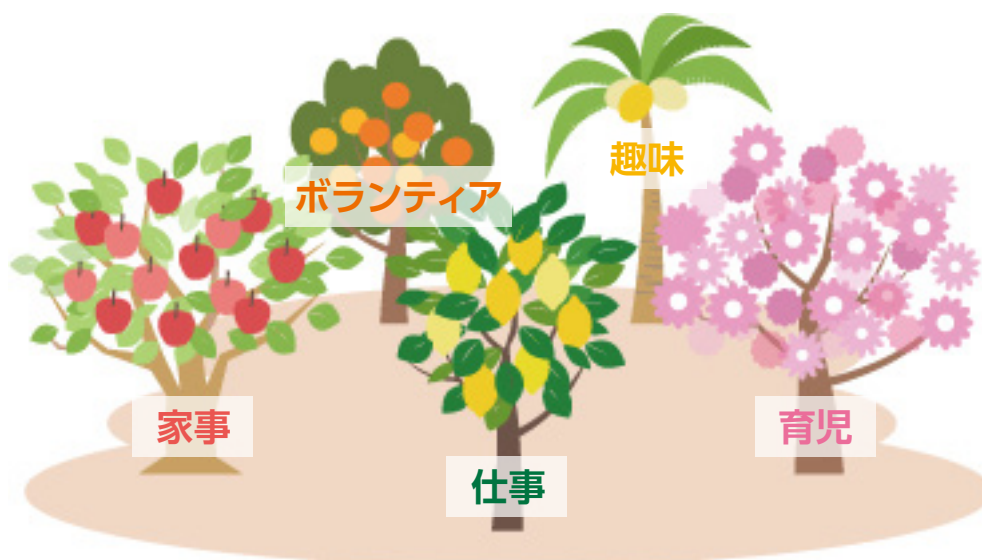
(26歳・未婚・フルタイム)

子供と一緒にピアノを習っているので、いつか地域の公民館でコンサートをやりたい。

(38歳・既婚・パートタイム、子供5歳)

仕事や家庭に加え、趣味やボランティアなど様々なことにチャレンジしてみたいというポジティブな声も目立ちました。自分の世界を広げ、誰かの役に立っているという「充実感」を得たいと望んでいるようです。

仕事か家庭のどちらかを選ぶのではなく、働き続けながら子育ても家事も、さらには趣味やボランティアなど、さまざまなことを経験したいと考える女性が多いようです。収入を得る「安心感」や、仕事や家事などで認められる「自信」、そして、趣味などで自分の世界が広がる「充実感」など、多方面で実りのある暮らしを求めていることがわかりました。



責任感や気遣いから、 自分の気持ちに折り合いをつける女性たち

仕事を続けたい、チャレンジしたいという気持ちがある彼女たち。しかしながら、結婚や出産など大きなライフステージの変化の前では一度立ち止まってしまうケースも多いようです。



Fさん 35歳 アパレル勤務
夫(35)

憧れていた職は、家庭を優先してあきらめてしまった。いまの仕事にもやりがいはあるけれど、子供ができれば、両立は大変そう……。職場のみんなに負担や迷惑をかけないか心配だし、これからどうしよう……。

就職
(22歳)

昔から憧れていたホテルコンシェルジュになるため、まず旅行会社で接客業務を経験。

転職
1度目
(26歳)

希望していたホテルに転職。忙しいし、大変だけど毎日が充実。

結婚
(29歳)

転職
2度目
(30歳)

忙しい夫の通勤を優先して引越す。ホテル勤務はあきらめ、通勤時間が短く、大好きな接客を生かせるアパレルに転職。

現在
(35歳)

やりがいも責任もあり、いつかは店長になりたい。子どもができて時間もやりくりして働き続けられたらいいな……

自分の選択が職場や家族に及ぼす影響を先回りして考える



今の仕事にはやりがいがあるけど、結婚したら、家事ももっときちんとやりたい。先のことを考えたら、もしかして仕事をやめるしかないのかも……。 (26歳・未婚・看護師)

資格も活かせるし、責任もあってやりがいもあるし、主任くらいにはなりたい!子どもができてずっと働き続けたい。でも職場に負担や迷惑をかけてしまうのではと今から心配。 (30歳・既婚・医療事務)



同じ職場の先輩ママは、仕事も、育児も、家事も、何でも完璧なスーパーウーマン。あこがれるけど、今の私にはきっと無理に決まっている。 (32歳・既婚・子供1歳半・証券)

いろいろなことを経験したいと前向きな気持ちを持ちつつも、自分の選択によって周りや自分がどうなるか先回りして考える女性たち。そのリアルな声を聞くことができました。強い責任感から、職場に迷惑をかけることや仕事が中途半端になってしまうことを懸念したり、周囲への気遣いから、家族や周りの人たちに負担をかけたくないという躊躇するケースが多く見受けられました。自分には無理かもしれない、とチャレンジする前にやりたい職種をあきらめてしまうなど、自分の気持ちをしまい込んで、働き方の選択肢を狭めてしまうことも多いと考えられます。

ちょっとしたきっかけから、 一歩踏み出した女性たち

悩んだり、迷ったりするなか、ちょっとしたことに背中を押され、一歩踏み出せたという声もありました。



Tさん 33歳 銀行勤務
夫(38) 長男(2歳)

育休から復帰してすぐの頃は、仕事にも、育児にもなかなか慣れず苦労した。短時間で集中して仕事をするようになったが、これからのキャリアに悩んでいた時、上司の一言が、私の気持ちを後押ししてくれた。

**就職
(20歳)**

職場での人間関係に悩んで転職も考えたが、両親からのアドバイスで、このままがんばることを決意。

**結婚
(28歳)**

夫と自分の通勤のしやすさを考えて、便利な場所にマンションを借りる。お互い忙しいし、最初から家事は分担。

平日の掃除と夕食は夫の担当。ロボット掃除機や、食材の宅配も定期的に活用。



**妊娠
出産
(31歳)**

育休後は時短勤務で復帰。

**現在
(33歳)**

上司から、新しいキャリアモデルとしてマネージャーへの挑戦を薦められる。モチベーションが上がり、今は資格取得にもチャレンジ!

自分の気持ちを伝えることがきっかけに



夫に思い切ってキャリアアップしたいという自分の気持ちを打ち明けてみたら、夫が率先して家事と育児を担当するようになり、やりたい仕事が続けられた。(37歳・既婚・子供3歳・団体職員)

同じ職場で子育てしながら生き生きと働いている先輩に声をかけ、ずっともやもやしていた悩みを相談。仕事のこと、家庭のことなど具体的なアドバイスをもらい、これから先をイメージできるようになり、仕事への意欲も高まった。

(29歳・既婚・通信)



一歩前進できた「きっかけ」は、上司からの思いがけない一言や、自分の気持ちをしまい込んでしまわずに周りの人たちへ自分の本当の気持ちを伝えたことでした。

一歩踏み出すためにも、 「やってみたい」気持ちを大切に

仕事・家事・育児・趣味といった多くのことを経験しながら、実り多い暮らしをおくりたいと望むポジティブな働く女性たち。ライフステージが変わっても、自分の「やってみたい」という気持ちを大切に持ち続け、そのおもいを周りの人達に伝えることは、彼女たちが思い描く暮らしに一歩近づく大事なステップであるようです。



●お問い合わせ・ご意見は **花王株式会社 生活者研究センター**

〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3 TEL. 03-5630-9963(月～金 9:00～17:00) FAX. 03-5630-9584

くらしの研究 <http://www.kao.co.jp/lifei/>

※掲載の記事・写真の無断掲載・複写を禁じます。